

# Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

取材・文／山本裕二 撮影／武田 易

## 大学の伝統である教養主義と時代のニーズに応える実学を融合した教育を展開していく

甲南女子大学  
学長  
松林靖明



**甲** 南女子学園は1920年に企業家でありながら教育にも力を入れていた安宅彌吉(あたくやきち)により、当時の女子教育に多くみられた家庭人の育成ではなく、良家の子女が教養を磨くことに主眼を置いた学校「甲南高等女学校」として創立いたしました。

その後変遷を経て64年に甲南女子大学が開学いたしますが、学園の教育方針「全人教育、個性尊重、自学創造」は継承され、建学の精神「まことの人間をつくる」の実現につとめ、教養教育を重視し誠実で品位ある女性を数多く育成してまいりました。2010年に本学の図書館から「古今和歌集」の最古級完本写本が発見されたこと

が新聞でも報道されましたが、これも本学が学生のために良質の教育環境を整えようと努めてきたことの一端といえます。

時代の流れとともに女子大学に対するニーズも変わってきました。本学としても教養主義のみならず実学も取り入れる必要があると考え、同グループである甲南病院の看護専門学校を引き継ぐ形で「看護リハビリテーション学部」を設置するなど、資格取得を軸にした実学も重視してまいりました。一方、多くの女子大学が共学化するなか、本学は今後も女子大学であることを変えない、という方針を明確にしています。ただ教養あつての実学とくらべており、両者を切り離して実学だ

けに目を向けるつもりはありません。実学を取り入れるにあたって、建学の精神との関係も徹底して議論し、「まことの人間をつくる」を現代的に読み返す作業を通じて、「品格と国際性を備え、社会に貢献する高い志をもつ女性を育成する」という大学の使命を定めました。建学の精神に「品格、国際性、社会貢献」を織り込むことで、従来の教養主義と新しい実学を融合できると考えています。

来年は大学開学50周年を迎え、さらに2020年には学園創設100周年という節目もあります。100年という歴史は非常に重みのあるものですが、単に伝統があることと、伝統を継承していることは別問題です。大勢の同窓生のためにも、伝統を継承しつつ発展していかなくてはなりません。女子教育の長い伝統歴史のもと、優れた環境と設備を備えた本学で充実した学生生活を送り、はっきりした目的と強い意志をもつ現代女性として、社会で活躍できる人材を育てていきたいと考えております。

【学長プロフィール】まつばやし・やすあき●1942年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。専門は中世日本文学。高等学校教諭を経て、1987年甲南女子大学文学部教授。文学部長、副学長などを歴任し、2011年4月より現職。学校法人甲南女子学園理事。

【大学プロフィール】1964年開学。看護リハビリテーション学部(看護学科、理学療法学科)、文学部(日本語日本文化学科、英語文化学科、多文化コミュニケーション学科、メディア表現学科)、人間科学部(心理学科、総合子ども学科、文化社会学科、生活環境学科)